

【小国町】校務 DX 計画

1. 趣旨

小国町では、GIGA スクール構想に基づき、令和2年度から ICT 環境の整備を進めてきた。しかしながら、教育現場では業務の複雑化や負担増加といった課題が依然として存在しており、効率的な校務運営が求められている。

これらの課題を解決するため、本町では教職員の働き方改革の一環として、校務のデジタルトランスフォーメーション (DX) を推進し、業務の効率化や負担軽減に向けた具体的な取り組みを進めることとする。

2. 小国町における現状と課題について

町は、校務系情報化計画の中、校務の効率化を図るため校務支援システムの導入、教職員のメール活用による連絡の迅速化やコミュニケーションツールを活用した教職員間の情報共有による校務の効率化を推し進め、また、行政が導入したシステムによる会議室の予約・共有機器の貸出予約等を活用し、紙の削減等に取り組んできた。ただ、課題も露呈してきている。

- ① 個人スキルにばらつきがあり活用できていない教職員も散見される。
- ② 各市町村で校務支援システムやクラウドツール・アプリケーションツールが違い、転勤した教職員は慣れるまでに時間がかかる。
- ③ 個人情報漏洩リスク低減のため、教育情報セキュリティポリシーの改定および、教職員への教育情報セキュリティの教育・訓練・監査が必要である。

3. 校務DXに向けた取組

他にも FAX でのやり取りや、押印廃止等を推し進め、下記の校務 DX 計画を推進していく予定である。

- ① 保護者及び児童生徒への連絡網整備→学校配信メールツールの活用・校内欠席者連絡共有でコミュニケーションツールの活用
 - ② デジタルドリルの充実化→AI を活用し加速化
 - ③ ハイブリッド授業の継続→クラスに馴染みづらい児童生徒のオンラインによる授業参加環境の維持・整備
 - ④ 令和 8 年度までに次世代校務支援システム導入に向けた検討→近隣市町村と協議を経てできれば統一
 - ⑤ FAX 利用及び押印の見直し・廃止 (一部を除く) の推進→メールやクラウド活用に代替 (紙使用の削減)
 - ⑥ 教育ダッシュボード検討→教育データの可視化 (児童生徒・教職員) 個別最適化
 - ⑦ 教育情報セキュリティポリシーの改定と周知→改定後学校や先生方へ周知徹底
 - ⑧ ICT 機器の操作等に長けた教職員等による校内研修の実施
 - ⑨ 校務支援システムの名簿情報への不必要な手入力作業の一掃
- 上記について実現年度を踏まえ、検討していく予定である。